

大阪市立吉野小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進 1 人権教育】 ① いじめ対応にかかる「振り返りチェックシート」における『大阪市いじめ対策基本方針』に基づいたいじめの対応を行っている」と回答する教員の割合を 80%以上にする。(新規) ② 年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。(R7:1.7%) ③ 年度末の児童アンケートにおいて「自分にはよいところがあると思いますか」について、肯定的に回答する児童の割合を 91.5%以上にする。(R7:91%)	
年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 - いじめアンケートなどを通して「いじめの芽」を早期発見し、迅速に、校内体制を整え調査するとともに、当該児童・関係児童双方の保護者、関係機関と連携するなど、「大阪市いじめ対策基本方針」に沿った対応を行う。 - SNS 等インターネット上のいじめや中傷、ゲームや動画等への依存を防ぐため、適切な使用や情報モラルについて考える指導を行う。	
指標 - いじめアンケートを年間 7 回実施し、アンケートの回答に上がった問題等について、1 週間以内に聞き取り・指導を行う。 - いじめ事案は、原則その日に、学年、管理職、人権教育部に報告する。 - 年間 1 回以上、情報モラルに関する授業を行う。 - 年間 1 回以上、保護者への啓発活動を行う。	
取組内容②【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 - 不登校傾向にある児童に寄り添い、家庭との連携を密にとり、原因を丁寧に聞き取り、登校に向けた支援を行う。 - 家庭環境に課題のある児童、虐待の疑いのある児童、不登校傾向のある児童等について、区役所、SC、区子育て支援室、SSW、こ相、警察などの関係機関と連携し、個別の事案についての情報共有と改善に向けた検討を行う。	
指標 - 児童に不登校傾向が見られた場合、学年、人権担当、管理職に相談し、状況に応じて、1 週間に 1 回以上、家庭と連携をとるようにする。 - 学期に 2 回以上、スクリーニング会議Ⅰを設定し、区子育て支援室の子どもサポートネット、SSW、家庭児童相談員等と連携し、個別事案の情報共有、改善に向けた検討を行う。	
取組内容③【基本的な方向 2、豊かな心の育成】 - 心理的安全性の確保のため、仲間づくりの取組を進める。 - 全校で、自尊感情・自己肯定感を高める取組を実施する。	
指標 - 全ての学級で、全ての児童が認められる取組を、年間 3 回以上実施する。 - すべての学級で、学期に 1 回以上、自己肯定感を高める取組を実施する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
【取組内容①】
【取組内容②】
次への改善点
【取組内容①】
【取組内容②】

大阪市立吉野小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 1 安全・安心な教育の推進 2 生活指導】 ① 学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を 56%以上にする。(R7:55%) ② 年度末アンケートで、「誰にでも自分から進んで気持ちの良い挨拶ができた」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を 65%以上にする。(R7:64%) ③ 年度末アンケートにおける「たんぼぼ班活動や学校の行事などの人との関わり合いを通して、楽しく学校生活を送ることができた」の項目について、最も肯定的に回答する児童の割合を、67%以上にする。(R7:66%) ④ 年度末アンケートで、「災害等の緊急事態が起こった時にどのように行動すればよいか分かる」の項目について、肯定的に回答する児童の割合を 70%以上にする。(新規)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 ・ 安全で快適な学校生活にするために、きまりを理解し、進んで守れるようにする指導を行う。 ・ 全教職員で「きまり」を共通理解し、児童、保護者に周知、徹底する方法を工夫する。	
指標 ・ 年間 1 回は、児童が主体的に「吉野小学校のきまり」について考え、きまりの大切さを理解し、進んで守れるようにする機会を設ける。 ・ 全ての学級で、月に 1 回以上、きまりが守れているか振り返り、改善する機会を設ける。 ・ すべての学級、担当で、年度初め、長期休業期間前などに、きまりの指導と保護者への周知を行う。	
取組内容②【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 ・ 児童自らがあいさつの大切さに気付き、来校者、地域の方へも自分から進んであいさつを実践する力を育てる取組を実施する。	
指標 ・ 学期に 1 回以上、運営委員会等を中心に、あいさつ週間の取組を行う。 ・ 全ての学年・学級で、あいさつの大切さについて考え、計画した取組を実践する。	
取組内容③【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 リーダーシップ、チームワーク、感性、優しさ、思いやりを養うため、たんぼぼ班活動、地域子ども会、委員会・クラブ活動などの異学年での活動を工夫する。	
指標 ・ 集会の計画等に沿って、全ての子どもが楽しく参加できる集会等の取組を行う。 ・ 年間 2 回以上、子どもが主体的に参加できるたんぼぼ班の行事を行う。	
取組内容④【基本的な方向 1、安全・安心な教育環境の実現】 ・ 火災、風水害、地震、不審者の避難訓練、引き渡し訓練を計画的に行い、災害等の緊急時にどのように行動すればよいかについて、子どもが主体的に考え備えるよう指導を行う。	
指標 ・ それぞれ年間 1 回以上実施する火災、風水害、地震、不審者の避難訓練、引き渡し訓練の際、全ての学級で、計画された内容の事前、事後指導を行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	

【取組内容①】
【取組内容②】
【取組内容③】
次年度への改善点

大阪市立吉野小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上 1 学力向上】 ① 小学校学力経年調査における算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.1 ポイント以上向上させる。 ② 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気づいたりすることができている」に肯定的に回答する児童の割合を 83.7%以上にする。(R7:83.6%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 - 教科の見方・考え方を活用し自分の考えを深め新たな考え方に気づく、主体的・対話的で深い学びの視点で授業を実践する。 - 習得した知識を、他の学習や生活場面でも活用できるよう、カリキュラム全体を意識した単元構成を行う。	
指標 - 全ての学級の全ての教科の授業で、児童自身がめあてをつかみ、自分の考えをもち、表現・交流を通して考えを深め、新たな考え方に気づく、そして何が分かったのか振り返る、一連の流れのある授業を実践する。 - 年度初め、学期末にカリキュラムを見直し、構成するカリキュラムマネジメントを行う。	
取組内容②【基本的な方向 4 誰一人取り残さない学力の向上】 - 数学的な見方・考え方を活用して課題解決をする子どもを育成し、算数科における深い学びの実装をめざして、授業研究に取り組む。 - 研究だよりの発行などで研究成果を共有し積み上げながら、研究を深める。	
指標 - 研究計画に沿って、全ての学年で計画的に算数科の教材研究、指導案検討、研究授業・討議会を行う。 - 研究授業の後に、講師の指導を記録した研究だよりを発行する。 - 年度末には研究の成果と課題を研究紀要にまとめる。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
【取組内容①】 【取組内容②】	
今後の改善点	

大阪市立吉野小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 2 未来を切り拓く学力・体力の向上 2 体力保持増進】 ① 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」を回答する児童の割合を 66.6%以上にする。(R7:66.5%) ② 児童アンケートにおける「健康的な生活をしている」という項目に、最も肯定的回答をする児童の割合を、65.1%以上にする。(R7:65%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を図る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ・ 体育の授業を中心に、休み時間なども活用して、運動に親しむ機会を増やす。 ・ 学校全体で、1 学期・新体力テスト、2 学期・大縄チャレンジ、3 学期・耐寒駆け足等の時間を設定し、目標をもって体力・運動能力の向上を図るようにする。 指標 ・ 全ての学級で、週に 1 回以上、体育の授業以外に運動に親しむ機会を設ける。 ・ 1 学期・体力アップタイム、2 学期・大縄チャレンジ、3 学期・耐寒駆け足等を計画通り実施する。	
取組内容②【基本的な方向 5 健やかな体の育成】 ・ 熱中症対策や感染予防など健康的に過ごそうとする意識を高めるために啓発する。 ・ 基本的な生活習慣の維持・発展を図るため、学級活動や保健指導を軸に指導を行う。 指標 ・ 年間 1 回以上、健康委員会、給食委員会等の児童による啓発活動を行う。 ・ 年間 3 回以上、健康に関する強調週間を設ける。 ・ 保護者啓発のため、強調週間の振返り等を保護者と共有する。	

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【取組内容①】

【取組内容②】

次年度への改善点

大阪市立吉野小学校 令和 8 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標 3 学びを支える教育環境の充実 1 教育 DX 生涯学習支援】 ① 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友達と共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を 83.7%以上にする。(R7:83.6%) ② 小学校学力経年調査における「学校の授業以外に、普段どれぐらいの時間、読書を読みますか(電子書籍を含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)。」に対して、「読書を全くしない」と回答する児童の割合を 15%以下にする。(R7:15.2%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容①【基本的な方向 6、教育 D X の推進】 ・ ICT を安全に、効果的に使いこなすことができるデジタルリテラシーを身に付けることができるよう、情報活用能力の向上を図る ・ 教員対象の ICT 活用研修を行い、教員のスキルを向上させる。	
指標 ・ 2 年生以上の全ての学級で、毎日、「心の天気」を入力する機会を設定する。 ・ 中学年以上の全ての学級で、毎日 1 回は授業で ICT ツール等を活用するようになる。 ・ 1 年間 2 回以上、教員対象に ICT 研修を実施する。	
取組内容②【基本的な方向 8 生涯学習の支援】 ・ 言葉を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けるために、司書と連携して、児童が様々な図書に興味をもつような活動を実践する。 ・ 教科学習の中で図書室や関連図書を活用する。 ・ 図書委員会による読書推進活動に取り組む。	
指標 ・ 全ての学級で月に 1 回以上、司書と連携して、読書を推進する取組を行う。 ・ 全ての学級で学期に 1 回以上、教科学習で図書室と連携した学習を行う。 ・ 年間 1 回以上、図書委員による読書推進活動を行う。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度の改善点	

大阪市立吉野小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実2 働き方改革】 ① 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を20時間30分以下とする。(R7:20時間54分) ② 校内の教職員アンケートにおいて、「安心して働くことができる」という項目に 肯定的回答をする教職員の割合を97%以上にする。(R7:96.88%)	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
取組内容 ①② 【基本的な方向7、人材の確保・育成としなやかな組織づくり】 ・ 会議や行事の見直しを進め、教育活動の充実と働き方改革の両立を図る。 ・ 時間外勤務月45時間を達成するため、1日130分（始業前30分・定時後100分）を上限として勤務時間自己管理シートを設定する。（時差勤務に実施により個別で時間設定が必要）	
指標 ・ 月1回ずつ、ゆとりの日とリフレッシュディ（定時退勤の日）を設定し、目標時刻に帰宅するようにする。 ・ 学期末に、会議や行事の内容と実施回数、次期等を振り返り、調整する。 ・ 毎月、全教職員が自己管理シートを活用し勤務時間を自己管理する。	
年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
次年度への改善点	